

■高木惣吉 海軍軍人。学者肌で、陸軍の強硬論抑えるべく壮絶な闘いをし、長い戦後を軍事評論家として生きた。

たかぎそうきち

郡司千島探検1893＝ 熊本県球磨郡西瀬村(人吉市)の球磨川河畔で、高木鶴吉・サヨの長男に生まれる。

日清戦争始・1894＝1歳： 貧しい家庭で、祖母ツルに可愛がられて育ち、

ピアノ国産化・1900＝7歳： 西瀬尋常小学校に入学。

教科書疑獄・1902＝9歳：

日比谷公園・1903＝10歳： 一年とび級して卒業し、組合立の人吉高等小学校に入学、

日露戦争終・1905＝12歳：

韓国反日暴動1907＝14歳： 首席で卒業。周囲の勧めに父が折れ、肥薩鉄道建設事務員に採用される。

アソビ創刊・1908＝15歳： 工事が終わったため、事務員を辞すことになり、何とか独学の道をと通信講座を購読、

〔国民中学会〕の詐欺的な広告に騙されて、

韓国併合・・・1910＝17歳： 上京。渡米の願い叶わず、製本所の載断工となり、クリスチャン島貫兵大夫の〔日本力行会〕に入会、

大逆事件判決1911＝18歳： 島貫会長の紹介で、東京天文台長寺尾寿の書生となると、評価され、その推薦で物理学校夜学に通い、

明治天皇没・1912＝19歳： 寺尾の母の勧めもあって、海軍兵学校(第43期)を受験、独学合格が新聞記事にもなって、入校。

大正政変・・・1913＝20歳： アル中だった父鶴吉が死去。

21ヶ条要求・1915＝22歳： 卒業し、練習艦(警手)乗組。

民本主義・・・1916＝23歳： オーストラリア方面の遠洋航海後、戦艦(安芸)乗組。少尉。

ロシア革命・1917＝24歳： 練習艦(千歳)乗組。

本格政党内閣1918＝25歳： シンガポールに在泊中の軽巡(明石)乗組命じられ、西南太平洋・印度洋警備。中尉。

ベルサイユ条約・1919＝26歳： 第三水雷戦隊旗艦として沿海州警備。戦艦(安芸)乗組。砲術学校から、

大暴落・・・1920＝27歳： 水雷学校に転じたところ、長年の飲酒癖がたまって健康を害し、舞鶴海兵団分隊長心得兼教官と都落ち。

原敬首相暗殺1921＝28歳： 奮起して再出発、大尉となって海軍大学航海科に入学、徴兵組の意地にかけて勉強し、

水平社結成・1922＝29歳： 2番で卒業。駆逐艦(帆風)航海長。鎌倉の高木静江と結婚。

関東大震災・1923＝30歳： 大震災で鎌倉の留守宅が倒壊し、妻が屋根の下敷き。呉鎮守府潜水学校付属の練習艦(駒橋)航海長。

護憲三派圧勝1924＝31歳： 急性関節リウマチのため転地療養、回復し、海洋観測艦(満州)航海長となり、

治安維持法・1925＝32歳： 学術研究として、南洋方面の海洋調査と測量。軍令部出仕兼海軍省出仕。海軍大学校(第25期)入校。

金融恐慌・・・1927＝34歳： 大正天皇大葬特別供奉拝命。首席で卒業し、少佐に進む。

共産党事件・1928＝35歳： 大使館付武官となりフランスに渡る。東欧と北欧へ旅行。

世界恐慌・・・1929＝36歳： シベリア鉄道経由での帰国命令受け、

海軍軍縮条約1930＝37歳： 帰国。海軍省副官兼海軍大臣秘書官となり、軍政への第一歩を踏み出す。

満州事変・・・1931＝38歳： 長男成が誕生。

五一五事件・1932＝39歳： 執務中に咯血し、茅ヶ崎に転地療養。右胸膜炎を併発し絶対安静。

国際連盟脱退1933＝40歳： 横須賀鎮守府付として復職。新任中佐としては異例の海軍大学校教官に登用される。

帝人疑獄事件1934＝41歳： 次男裕が誕生するが

芥川直木賞始1935＝42歳： 脳炎で死去。帰郷し、人吉中学で「日米問題と海軍」について講演。人吉宝来町に自費で祠建立。

二二六事件・1936＝43歳： 海軍省臨時調査課課員となり、敬遠されがちな議会議事務所にとり組み、米内光政海相に知られる。

日中戦争始・1937＝44歳： 自ら含め家族三人が、半年間に四回の手術入院。臨時調査課長。大佐。

健保+総動員 1938＝45歳： *陸軍強硬論抑えるべく、芝の秘密会議での論争(ブレントラスト編制への直接の動機となる)。

第二次大戦始1939＝46歳： 西田幾多郎と初対面。海軍大学校教官に逆戻り人事、海大研究部に三名の囑託を迎える。

大政翼賛会・1940＝47歳： ブレントラスト結成ため、西田に京大哲学グループの協力を要請し、快諾得。

日米開戦・・・1941＝48歳： 台湾視察。京大訪問、西田門下の教授らに活動の輪を広げ、ブレントラストを編成。

・・・1942＝49歳： 南方民政府総務局長の件は健康診断で不適、以後も在外派遣任務は不適に。舞鶴鎮守府参謀長に左遷。

創価学会検挙1943＝50歳： 田中頼三少将も舞鶴に左遷。人吉に帰郷、母を見舞う。海軍少将。京大の5教授が舞鶴来訪。原田熊雄の招致を受け近衛文麿らと会談。人事局長から太平洋戦の戦訓研究着手指示通達。倒閣の決意を日記に記す。

年金+総武装 1944＝51歳： 母が死去。岡田大将に海相更迭を訴える。近衛の招きで原田らと会談。協力者得て、暗殺をも考えた東條内閣打倒工作が本格化。井上成美次官から終戦工作の命を受ける。

敗戦・・・1945＝52歳： *戦局收拾中間報告」「研究対策(和平促進)」「時局收拾対策」を提出。*鈴木内閣で米内海相留任工作の実現。

秘密御前会議で天皇から外交交渉開始発言。予備役編入。敗戦、東久邇内閣副書記官長となるも総辞職。

和辻哲郎から勧められ、匿名条件で、岩波〔世界〕に「終戦覚書」連載。以後、戦史執筆を使命とする。

極東裁判判決・1948＝55歳： 妻が過労で心臓発作、自らは二度咯血。「終戦覚書」刊、

三大事件・・・1949＝56歳： *岩波新書「太平洋海戦史」刊、「連合艦隊始末記」刊、いずれも万を超える部数に、評価両極。

朝鮮戦争始・1950＝57歳： 「山本五十六と米内光政」刊に賛否記事。「日本の運命」刊。〔世界〕に「日独伊軍事同盟成立の経緯」、

独立回復・・・1951＝58歳： 「軍事基地」刊。〔世界〕に「戦争の正体」「勝利の幻滅」「連合軍進駐の前後」寄稿。日本商船非常勤顧問。

メーゴ-事件・1952＝59歳： 体調不良と強度の不眠。追放解除。海上警備隊保安研究所に出講始。外務省非常勤囑託となる。

自衛隊発足・1954＝61歳： 〔世界〕に「現代の戦争」連載。

55年体制始・1955＝62歳： 〔世界〕に「現代戦争のメカニズム」「ウエリントン」の敗報。海上自衛隊幹部学校で特別講義開始。

国連加盟・・・1956＝63歳： 両眼結膜炎。静江が吐血し入院。〔世界〕に「戦争と人間」「原子戦争と軍師の機械化」。岩波新書「現代の戦争」刊。ベストセラーとなる。

なべ底不況・1957＝64歳： 眼病のため執筆休止し、南伊豆に旅行。日本商船取締役就任。

インカトアール・1958＝65歳： 咯血。(虎ノ門会)発会。妻の母が死去。

美智子妃・・・1959＝66歳： 胃腸障害に苦しむ。茅ヶ崎東海岸に敷地購入。夫婦で箱根旅行(豪雨で中止)。

安保闘争・・・1960＝67歳： 妻が心不全を合併。成が虫垂手術。

全国総合計画1962＝69歳： 伊藤正徳が死去し、(産経新聞)に追悼文を書く。また咯血。

TV宇宙中継始1963＝70歳： 血痰、神経痛、不眠つもの。日本商船が倒産し、役員を辞任。

東京リビウツ 1964＝71歳： 妻と長男成の看病と家政の日々。

大学紛争始・1965＝72歳： 妻が病状悪化し死去。人吉に帰郷。

美濃部都知事1967＝74歳： 妻の三回忌に「山茶花の夢」配布。(高木惣吉先生を励ます会)開催。「太平洋戦争と陸海軍の抗争」刊。

霞ヶ関ビル・1968＝75歳： 茅ヶ崎東海岸の新居に移る。

全共闘・・・1969＝76歳： 〔丸〕に「自伝的日本海軍始末記」連載始。文芸春秋に「東條首相を暗殺せよ」掲載。「私観太平洋戦争」刊。

大阪万博・・・1970＝77歳： 咯血つづく、絶対安静。

トルジョク・・・1971＝78歳： 光人社「自伝的日本海軍始末記」刊。

日中国交回復1972＝79歳： 「私観太平洋戦争」増刷。外務省退職。「自伝的日本海軍始末記」増刷。年末から、臥床。

石油ショック1973＝80歳： 幹部学校教官と学生に向洋荘で講義。数ヵ月ぶり上京し(虎ノ門会)出席。

角栄金脈辞任1974＝81歳： (虎ノ門会)3度出席。幹校講義(向洋荘)。

クアラルール事件1975＝82歳： 幹校講義(向洋荘)。井上成美の葬儀に参列。急性肺炎で藤沢市民病院入院。

田中角栄逮捕1976＝83歳： 退院。耳が遠くなる。光人社より「自伝的日本海軍始末記・続篇」執筆を依頼さる。

成田衝突・・・1978＝85歳： 衰弱著しいなか、なお、幹校の校長ほか6名に自宅で講義をして、

革新大敗北・1979＝86歳： *没した。「自伝的日本海軍始末記・続篇」刊。

平瀬努「高木惣吉正伝」、